

飯豊山行

昭和 50 年 8 月 26 日～30 日 胎内尾根～門内岳～飯豊本山～ダイグラ尾根

同行：T

【概要】

24 歳の夏のこと。飯豊の登山ルートはあらかじめ通り、残る大物は胎内尾根とダイグラ尾根。共に飯豊一、二を誇る長大ルートであり、登っているのか下っているのかわからないほどの苦行の道である。そのため最後までやり残していた道だった。この際、一度でやつつけてしまえと思い立ったのが今回の計画。

しかし寝不足と運動不足に朝酒、山中での暴飲暴食がたり、何ともハヤの珍道中となってしまった。結局、4 泊 5 日のうち何と胎内尾根中で 2 泊し、主稜に泊まったのはわずかに御西小屋 1 泊。哀れにもだまされ唆された同行の T は、今回のルートの詳細（お馬鹿さ加減）をろくに知らぬまま、飯豊に地獄を垣間見た次第（T 君、ゴメン）。

まさに「若さとはバカさなり」。愚拳の顛末記をご笑覧下さい（原本は長文のため半分くらいに削りました）。

行動記録

第 1 日（8 月 27 日）

前夜（8 月 26 日）発の急行佐渡（懐かし！）で新潟経由、早朝に新発田入り。

| 天候 | 地名・行動 | 到着 終了 | 出発 開始 | 雲 量 | 記 録 |
|---------|------------------------------------|--------------------|---------------|--------|---|
| 曇 | 胎内小屋 | 10:25 | 11:31 | | 周りはブナの原生林に囲まれ、環境頗る良。時折、雲の切れ目より陽がさすと暑い。夜にはくずれる模様。小屋より林道を更に行くと、200mほどで右下に吊橋が見えてくる。 |
| | ナデ峰 | 12:03 | pass | | 登り道は傾斜を増したり緩めたりで歩き易い。然し寝不足か、T 氏宅での朝酒がたたったか、胸がむかつきやや苦しい。汗だらだら。気分回復のため、暫く休憩。パンシロンが効いたのか、不快感は消える。然し足は若干重い。 |
| 曇/ 晴 | 小休止 | 12:15 | 13:00 | | 593m 独標は、全くピークらしさはなく、平坦な道を伝って見晴台に出る。二王子の展望が良い。それからすぐ下る。あとは地図にもものらぬ小さな登下降を繰り返し、暫くは高度を稼がない。 |
| 快晴 | 頼母木越 | 13:09 | pass | | 天候が次第に回復すると共に、風も出てきて、心地よい。マツとブナの混林の道でなかなか気持ちのよい道である。鉾立から頼母木までの稜線がよく見える。腹減り握り飯を喰う。体だるく眠たい。 |
| 快晴 | 見晴台(593m) 小休止 | 13:12 13:44 | pass 14:05 | | とりえのない平頂であるが、つくまでのブナ林がきれいである。過ぎてすぐ、雨量計跡がある。その後灌木の中の道となる。 |
| 晴 晴 | 小休止 池ノ平峰 | 14:35 15:40 | 15:00 pass | | ここで、水場探しに大変だった。池ノ平と大鍋の泊場を混同したためである。結局いたんだ標識から大鍋の泊場を発見し、ようやく落ち着く。水場までは本流側へ下り 3～4 分。 |
| 晴 | ポット雨量計 (大鍋泊場まで 5分) 就寝 | 15:45 19:30 | | | |




第2日 (8月28日)

| 天候 | 地名・行動 | 到着 終了 | 出発 開始 | 雲 量 | 記 録 |
|---------|------------------|--------------------|----------|--------|--|
| 快晴 | 起床 | 5 : 30 | 8 : 10 | | 1 時間ほど寝過ごす。天気は上々。主稜側にわずかだが巻雲がある。日中はまた雲が多いかも知れない。 水汲みは一仕事だ。 陽射し強く、風なく視程もややかすむ。 |
| 快晴 | 小休止 (1230m付近) | 9 : 04 | 9 : 21 | | 風通しの悪いヤブ道で、蒸し暑い。本山方向はモヤの中。杵差の頭が鉾立の肩越しに見える。 この付近から急激に、異常に腹が減ってきて、ペース極端に落ちる。ようやく滝沢峰直前まで来る。 |
| 晴～ 曇 | 休止 (1300m付近) | 10 : 05 | 11 : 15 | | 昼食休憩とす。全身だるく、眠い。 この間に雲が多くなり、主稜もすべて雲の中に入る。 |
| | 滝沢峰 | 11 : 35 | pass | | 滝沢峰以後は小突起の繰り返しである。小池のわきで休止。この間、雪田跡が多く見られる。この池もまた、良い泊場となっている。陽がかげり、気持ち良い。 |
| 曇 | 休止 (1350m付近) | 12 : 10 | | | 途中、一ノ峰基部の大雪田跡で登路を見失い、都合 20 分位ロス。一ノ峰頂上近いところで休止。 |
| 曇 | 小休止 (1500m付近) | 13 : 35 | 13 : 45 | | 二ノ峰が高い。ウンザリするが、越えたら又急降下が待っている。一ノ峰は頂稜が割合長い。二ノ峰との鞍部左下に雪田跡。間に上がる沢は全面がガレている。 |
| 曇 | 小休止 | 14 : 10 | 14 : 21 | | 北股川一帯を除いて、すべてガスの中となった。 |
| 霧 | 二ツ峰 藤七ノ池 | 14 : 40 15 : 10 | 14 : 50 | | 雪田はすべて消えたあと。わずか残ったたまり水を利用して今日はここで幕営とす。 暫く一帯はガスの中であるが、5時過ぎより次第に晴れてきて、その後完全に主稜が顔をだした。早速写真撮影で大騒ぎだが、ブヨがものすごく、メシを食うにも何するにも大変だ。 周囲は広大で緩傾斜、夏の初めはおそらく雪田も豊富で、快適な泊場だろう。ここから見る二ノ峰のピークは鋭い。夕陽はここからはちょうど一ノ峰の二ノ峰の間に沈む。 |
| | | | | | <p>【後記】 ここまでに稼いだ高度は、7 時間かけて何と 600m!! 予定していた門内小屋までは未だ道遠し。如何にぐうたら道中であつたかお分かりかと・・・</p> <p>藤七ノ池に着いてまもなく、二人の友情史に残る歴史的会話が為される。 「Tよ、今、俺の考えていることがわかるか」 「よ～っく、わかるとも」</p> <p>ということで、あっさり門内は放棄。藤七ノ池泊りに決定。</p> |
| | 就寝 | 20 : 50 | | |  <p style="text-align: right;">T君</p> |

第3日 (8月29日)

| 天候 | 地名・行動 | 到着 終了 | 出発 開始 | 雲 量 | 記 録 |
|------------|------------------|----------|----------|--------|---|
| 快晴 | 起床 | 4 : 40 | 7 : 30 | | <div data-bbox="842 293 1385 645" data-label="Image"> </div> <p>昨夜は素晴らしい星の夜であった。新発田祭りの花火の打ち上げ音も聞こえる。残念にも見ることはできないが。今朝はすばらしい青空が広がる。</p> <p>朝露でニッカーも靴も濡れる。暫く湿原帯に行く。池塘のわきにはモウセンゴケの群落。最低鞍部に降下して、あとの登りはきつくはない。背後に見る二ツ峰が、一步ごとに壮観である。1770m突起を越えた鞍部で休止。わずかな残雪がすぐ下にある。門内岳はすぐ上だ。</p> <p>歩いた分休んでしまった。以後は笹原の気持ちの良い道で、一本調子だが苦にならない。</p> <p>頂上には新しい、オレンジ色のバス停みたいな標識が立っていた。ややけばけばしく、つり合わない。</p> <p>あとは快適な稜線散歩。人かげ全くない。</p> <p>昨日一昨日と同様に日中はガスが湧いてくる。既に、扇ノ地紙、北股はガスの中に入る。</p> <p>石コロビは雪が少ない。その他はガスで全く見えず。</p> <p>小屋は相変わらず修復されていない。老登山者とその娘さんらしい二人連れとすれ違う。小屋には、切合セから来たという体格のよい登山者一人。昼食休憩。</p> <p>登りつつふり返ると、石コロビから湧くガスの動きがダイナミックだ。撮影等で5分間ほどロス。</p> <p>本山、御西は遠くかすむ。視程まことに悪い。</p> <p>亮平ノ池を越え、左下の雪田で花など撮影し、休憩。水流割合多い。</p> <p>御西手前、1950m 鞍部で、水汲みのため休止。そろそろブヨが出始めた。</p> <p>先着パーティ6人。今日は小屋泊り。</p> <p>腹が減り、飯を多めに炊くが、出来るまでの間食がたたって、二人共半分食い残してしまう。</p> <p>夕方、ガスもほぼ引き、大日岳が残照にシルエットを浮かび上がらせる。</p> <p>Tは随分参っているようで、食後すぐ眠りについた。</p> <p>【後記】 この日で酒が切れ、長者原まで禁断症状に苦しむことになった。</p> |
| 快晴 | 出発 | | | | |
| 快晴 | 休止 (1750m 鞍部) | 8 : 25 | 9 : 20 | | |
| 晴 | 門内岳 | 9 : 40 | pass | | |
| 晴～ 曇/霧 | 休止 (1890m) | 9 : 58 | 10 : 15 | | |
| 曇/霧 霧/晴 | 北股岳 | 11 : 02 | 11 : 10 | | |
| | 梅花皮小屋 | 11 : 25 | 12 : 40 | | |
| 曇/晴 | 梅花皮岳 | 13 : 12 | pass | | |
| 晴 | 烏帽子岳 | 13 : 30 | 13 : 56 | | |
| | 亮平ノ池 | 14 : 20 | pass | | |
| 晴/曇 | 休止 | 14 : 30 | 15 : 05 | | |
| 晴 曇/霧 | 天狗ノ庭 | 15 : 30 | 15 : 40 | | |
| | 小休止 | 16 : 10 | 16 : 35 | | |
| 曇/霧 | 御西小屋 | 16 : 43 | | | |
| | 就寝 | 19 : 45 | | | |

第4日 (8月30日)

| 天候 | 地名・行動 | 到着 終了 | 出発 開始 | 雲 量 | 記 録 |
|----------------|--------------------|-------------------------|---------------|--------|---|
| 快晴 | 起床 | 4:50 | | | 二千m級の朝は寒い。大日、北股とも朝もやの中に、ほのかにかすむ。 |
| 快晴 | 出発 | | 6:35 | | 8年間、見なれた遊歩道に行く。途中、駒形山手前の鞍部より右に巻き道に行く。分岐してすぐの清水がうまい。 付近は雪渓、花崗岩の露岩多く、名刹の庭園を見るようだ。神社までは都合10分くらいロスする。 |
| 快晴 ～晴 ～曇 | 飯豊山神社 | 8:00 | 8:33 | | 神主は不在。また雲が湧きはじめ、大日、御西は既にガスの中に入る。 |
| | 飯豊本山 | 8:46 | 9:23 | | 神社方向も、次第にガスにまかれはじめる。オコジョが突然顔を出して、暫く遊んでいった。 |
| | | | | |  <p>本山に至る石庭</p> |
| | | | | |  <p>本山にて</p> |
| | | | | |  <p>オコジョ</p> |
| 曇 | 小休止 (1810m 付近) | 10:22 | 10:40 | | 本山からは石庭の中を行き、それから急降下、千本峰めざしてガタガタ下る。上から見る岩峰群はきつそうな登りに見えるが、実際はさほどでもない。 |
| 曇 | 小休止 | 11:48 | 12:05 | | 鳥帽子のY字雪渓が見事。 |
| | 千本峰 | 12:13 | pass | | 以下ずっと千本峰まで急降下と岩峰、突起をまじえた道だが、巻き道もあって、割合早く通過できる。 |
| 曇 | 小休止 (1150m 付近) | 12:58 | 13:23 | | 主稜は全くガスにかくれる。千本峰への登りでダウン。付近はコマツガとヒメコマツの混林で、ガスがかかり、一幅の山水画を見るようだ。 |
| | | | | |  <p>宝珠山？</p> |
| 曇 | 落合 ヌクミ平 飯豊山荘 | 14:15 15:10 15:35 | 14:50 pass | | 地図を誤認したか、この先にまだ岩峰あり。標識によれば、千本峰とおぼしき所には、自記雨量計があった。通過は12:45。その後は一直線の急降下で、膝に相当こたえる。下って間食をとる。 |
| | | | | | ここからは、ちょっとした尾根のタルミを越えて、あとは直線一気。はるか眼下の河原をめざして、下りに下る。いい加減足も出なくなった頃、漸くにして落合がせまる。釣橋を渡って、快い清流に汗をながす。足が石のようだ。 |

この後、飯豊山荘にテント泊し、翌31日に帰京しました。

ちなみにTは前年にも、私の「飯豊はイイデェ～」の甘言に乗せられて、湯の島小屋からオンベ松尾根、大日岳を経て御西小屋までの苦行を体験しました。人を疑うことを知らない、いいヤツなのです（T君、何度もゴメン）。